日本記者クラブ賞・同特別賞　受賞者決定

ジャーナリストの松尾文夫氏に日本記者クラブ賞、特別賞はチューリップテレビと森重昭氏に

公益社団法人日本記者クラブ（伊藤芳明理事長）は 4 月 28 日、理事会を開き、ジャーナリストの松尾文夫さん（83）に 2017 年度の日本記者クラブ賞を贈り、チューリップテレビ報道制作局政務活動費取材チームと歴史研究家の森重昭さん（80）に日本記者クラブ賞特別賞を贈ることを決めた。

松尾文夫さんは共同通信の記者時代から半世紀を超えるライフワークとして米国報道に取り組み、とりわけ近年は被爆地広島とハワイ真珠湾を日米首脳が訪問し献花することで、真の戦後和解が生まれると熱心に訴えてきた。2016 年 5 月、オバマ大統領が広島を訪問し、12 月には安倍晋三首相が真珠湾を訪れ、提言通りの相互献花外交が実現した。日米戦後史の重要な一里塚につなげた取材と執筆活動が日本記者クラブ賞にふさわしいと高く評価された。

チューリップテレビ（富山県）報道制作局政務活動費取材チームは、宮城克文（42)、砂沢智史（37）の両記者が中心となり、情報公開で入手した膨大な資料を丹念に読み解き、富山市議会議員の政務活動費不正受給を次々に暴いた調査報道が高く評価された。

森重昭さんは既存のジャーナリズムがほとんど取り上げてこなかった被爆米兵問題を約 40 年にわたり粘り強く独力で調査を続け、原爆の犠牲になった米兵 12 人の身元を特定したことなどが高く評価された。

【贈賞の理由　受賞者の紹介】

日本記者クラブ賞

松尾　文夫（まつお・ふみお）氏
ジャーナリスト・共同通信社出身



松尾文夫氏は共同通信の記者時代から半世紀を超えるライフワークとして米国報道に取り組み、とりわけ近年は被爆地広島とハワイ真珠湾を日米首脳が訪問し献花することで、真の戦後和解が生まれると熱心に訴えてきた。

2016年5月、オバマ大統領が広島を訪問し、12月には安倍晋三首相が真珠湾を訪れ、提言通りの相互献花外交が実現した。日米戦後史の重要な一里塚につなげた取材と執筆活動が高く評価された。

空襲に生き残った体験を出発点に、米英とドイツの「ドレスデンの和解」や世界各地の和解を現地取材してきた。通信社を引退後、68歳でジャーナリスト復帰を宣言。現場を歩き、当事者を訪ね、執筆を続ける。83歳でも衰えない旺盛な記者精神は後輩にとってモデルであり、ジャーナリズムの信用と権威を高めた業績は日本記者クラブ賞にふさわしい。

松尾氏は1933年8月12日、東京生まれ。83歳。学習院大学政経学部政治学科卒業。56年共同通信社入社。ニューヨーク、ワシントン各特派員、バンコク、ワシントン各支局長、論説委員などを歴任。㈱共同通信社常務、共同通信マーケッツ社長を務めた後、2002年に68歳でジャーナリストに復帰。著書に『ニクソンのアメリカ』（サイマル出版会）、『銃を持つ民主主義』（小学館　第52回日本エッセイスト・クラブ賞受賞）、『オバマ大統領がヒロシマに献花する日』（小学館）、『アメリカと中国』（岩波書店）など。翻訳書に『ニクソン回顧録』（小学館）などがある。

日本記者クラブ賞特別賞
チューリップテレビ報道制作局 政務活動費取材チーム



チューリップテレビ（富山県）政務活動費取材チームは、宮城克文（42　写真＝左）、砂沢智史（37）の両記者が中心となり、情報公開で入手した膨大な資料を丹念に読み解き、富山市議会議員の政務活動費不正受給をスクープし、さらに続報も含めた一連の報道は、14人の市議を辞職に追い込む要因となった。これはジャーナリズムの果たす本来の役割を示したものとして高く評価された。

さらに、小さな地方テレビ局の少数の記者が、既得権益にしがみつく地方の政治権力にひるむことなく調査報道で立ち向かい、大きな成果を上げたことは、同様の状況下にある小規模メディアの記者たちにも大きな励ましになった。

不正を暴く取材過程も丁寧に映像化して番組として視聴者にわかりやすく提示し、テレビ報道の見本を示した。また政務活動費不正は、他県でも起こりうる問題でもあり、今回のスクープが不正監視に対する全国的な関心を呼んだことにも大きな意義があった。

チューリップテレビ（本社・富山県高岡市）は1990年開局。略称はTUT。JNN系列局。http://www.tulip-tv.co.jp/

日本記者クラブ賞特別賞
森　重昭（もり・しげあき）氏



森重昭氏は既存のジャーナリズムがほとんど取り上げてこなかった被爆米兵問題を、会社員としての勤務をこなしながら、休日を利用して約40年にわたり粘り強く独力で調査を続け、原爆の犠牲になった米兵12人の身元を特定した。職業的な記者ではないが、手法は調査報道そのものである。

事実に肉迫していく持続力、行動力は、プロのジャーナリストも学ぶべきことが多い。また、少年時の自らの被爆体験から出発し、被爆米兵に同情を抱き、被爆者に国籍の差別はないとの普遍的

な心境に至った仕事ぶりも評価された。さらに長期の調査活動を通じて、米兵遺族との交流を深めており、戦争をめぐる市民レベルでの日米の戦後和解としても高く評価された。

森重昭氏は 1937 年 3 月 29 日、広島市生まれ。80 歳。済美国民学校 3 年、8 歳のときに、爆心地から約 2.5 キロで被爆。中央大学卒業。山一証券、日本楽器に勤務する傍ら 1970 年代から、原爆で死亡した米兵捕虜の調査を開始。被爆死した同兵は 12 人であることを突き止めた。2016 年 5 月、現職米大統領として被爆地・広島を初めて訪れたオバマ大統領が原爆慰霊碑前で演説した後、森氏を抱擁した映像が記憶に新しい。著書に『原爆で死んだ米兵秘史』（2016 年　潮書房光人社）などがある。第 64 回菊池寛賞受賞。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

【日本記者クラブ賞と日本記者クラブ賞特別賞について】

日本記者クラブ賞は、千葉雄次郎氏（元日本新聞学会会長）が同クラブに贈った寄託金を基金として 1972 年に創設された。報道・評論活動などを通じて顕著な業績をあげ、ジャーナリズムの信用と権威を高めた日本記者クラブ会員および法人会員社に属するジャーナリスト個人に贈られる。

日本記者クラブ賞特別賞は、クラブ賞創設 40 年を機に、より開かれた賞をめざして 2012 年度に新設された。原則としてクラブ会員以外の内外のジャーナリストやジャーナリズム活動に贈られる。ジャーナリズムの向上と発展につながる特筆すべき業績や活動を顕彰する。

いずれも日本のジャーナリズムの高い水準を示す表彰であり、日本記者クラブの公益目的事業のひとつである。

日本記者クラブ賞歴代受賞者一覧　https://www.jnpc.or.jp/outline/award